

Ⅲ 特に推進すべき4つの事項について 各市町教育委員会の取組



8年ぶりに開催された
鱒ヶ沢町白八幡宮大祭
8月14日～8月16日

Ⅲ 特に推進すべき4つの事項について各市町教育委員会の取組

◇五所川原市教育委員会

地域人財の発掘・育成

1 事業名 スポーツフェスティバル事業

(1) 目的

幅広いスポーツ・レクリエーション活動を体験できる場をつくり、生涯にわたり、健康でいきいきとしたスポーツライフの実現ができるようスポーツ・レクリエーション活動を普及・振興することを目的とする。

(2) 事業内容

小中学生の子どもたちを対象として、五所川原市スポーツ推進委員による野球、卓球、バレーボール、バスケットボール、陸上、サッカー、スポンジテニス、バドミントン、ヨガ、軽スポーツ等のスポーツ体験を行った。

成果と課題

今年度新たに4名のスポーツ推進委員を迎え、指導できる競技の幅が広がったことから、この企画を計画した。事務局はイベント周知や全体統括を行い、スポーツ体験は全て委員のみで対応した。当日は、予想を超える参加者数だったが、委員が臨機応変に対応し、楽しく活動することができた。また、子どもたちに実際に指導することで、さらに指導力の向上意欲を高めるきっかけとなったと感じる。

イベントを通して、人財を活用したスポーツ普及事業の新たなアイデアのヒントを得られた。

現在は人財に恵まれているが、これは永久的なものではないため、スポーツ推進委員事業を充実させたり、情報を発信したり、クラブチーム等とのコミュニケーションを大切にしたりするなど、人財の確保を続けていく必要がある。

学校・家庭・地域の連携・協働（コミュニティ・スクールを含む）

1 事業名 地域学校協働活動事業

(1) 目的

地域と学校が連携し、子どもたちの学びや成長を支えることを目的とする。

(2) 事業内容

令和7年度は10月から1名増え、小学校7校、地域学校協働活動推進員9名を配置した。



今年度も新規地域学校協働活動推進員を含めた市独自の研修会・情報交換会を実施し、地域学校協働活動推進員の資質向上に努めた。

各学校において定期的に会議を開催するとともに、学校と地域の間にとって連絡調整、情報共有などコーディネートすることで、地域住民やボランティア活動を進めた。



成果と課題

研修会・情報交換会では、各学校の現在の活動状況の情報共有とともにそれぞれの地域学校協働活動推進員が持つ悩みを出し合い、解決の方向性を見いだせた。

活動を活発にするにはボランティアの確保が必須であるが、日中活動してもらえないボランティアは限られており、確保することが難しい。PTAのボランティアとして活動していただいていた方に子どもが卒業した後も活動していただけるよう卒業前に地域学校協働活動推進員から直接お願いをし、ボランティア名簿にたくさんの方に登録してもらうことはこれからも重要課題である。

また、地域学校協働活動推進員を市内全小中学校に配置することが目標であるが、配置を希望しても人材確保が難しい状況が続いている。

家庭教育支援の充実

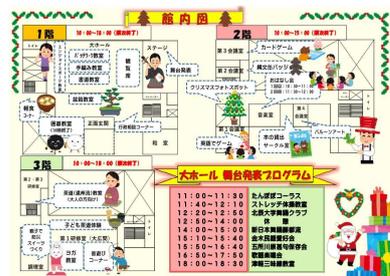
関係機関・団体等によるネットワークづくりの推進

1 事業名 公民館まつり

(1) 目的

市民の学びのきっかけづくりとして、学習活動や仲間づくりを楽しみ、教養を高め、学びの輪を広げることで、生涯学習に対する理解や関心を高めることをねらいとし、中央公民館にて開講している市民講座「みんなの教室」の、令和7年度の学びの集大成を発表し、今年度の教室で得た成果を広め、受講生には来年度の課題や目標づくり、来場者には新たな学びへの気付きを得てもらうことを目的とする。

また、大人だけでなく、子どもたちも楽しめるアトラクションコーナーを設け、幅広い世代が、教養を高めながら交流することを目的とする。



(2) 事業内容

みんなの教室の盆栽教室、書道教室、手編み教室、パッチワーク教室は、作品を展示した。囲碁教室、エンジョイスポーツ教室、ヨガ教室、遠州流茶道教室では、参加者が体験できるコーナーを開設した。ストレッチ体操教室、津軽三味線教室は、日ごろの成果をステージ発表した。また、みんなの教室以外で市内で活動するコーラス、舞踊、民謡、歌謡の団体が参加し、ステージを盛り上げた。

日本赤十字五所川原奉仕団五所川原分団による、軽食コーナー、災害時でも食べられる防災スイーツづくり、五所川原市連合婦人会による昔遊び、青森県青少年健全育成推進員五所川原市協議会によるバルーンアートづくりとスマホに潜む危険コーナー、ごしょがわら子ども読書活動推進実行委員会による読み聞かせ、ALTによる英語でゲームコーナーなど、多くの関係機関の協力を得て実施した。

スマホに潜む危険と題し、スクリーンタイムの見直し啓発のためのポスター掲示をしたコーナーでは、読んでいただいた親子にスクリーンタイムなどのルールを書いていただき粗品を渡した。来場者のほとんどが小学生で、スマホを持っていないため、タブレットの使用ルールを書いていただいた。



成果と課題

公民館まつり単独の開催の場合、約1か月前に開催する市民総合文化祭とほぼ内容が同じであるため、客足が伸びず、苦勞していたが、子どもフェスティバルを含んで開催したことによりこれまで参加していなかった年齢層が来るようになり集客につながった。

教室受講生、参加者共に同じ趣味の分野の他団体に触れることにより、一層教養を高め合うきっかけになった。

子どもフェスティバルにとっても公民館まつりの一部となることでこれまで来場していない年齢層がコーナーを訪れ、一定の効果があった。

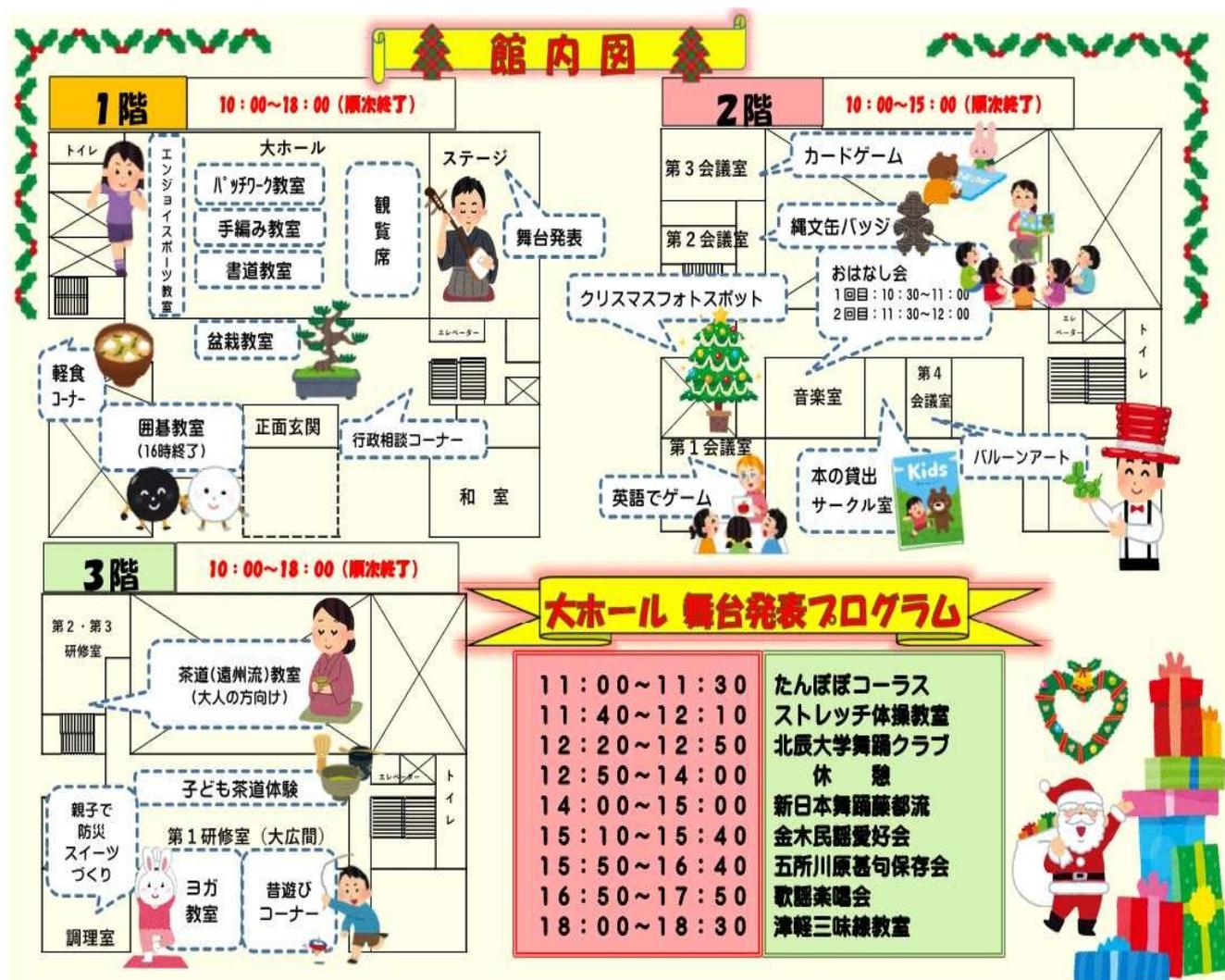
しかしながら、子どもにとってまだ理解が難しい教室や、逆に大人にとって子ども向け過ぎるコーナーなど、行ってみなければわからない場面があったため、今後は参加者が予め情報を得られるよう、コーナーの説明を記載した用紙を配布する必要があると感じた。

また、参加者から、子どもでも大人の教室を多く体験してもらえよう、スタンプラリーを復活させてはどうかという意見があった。

来年度以降は、まずは興味を持ったコーナーを訪れやすくするための工夫をして実施したいと思う。



公民館まつり 館内図



◇つがる市教育委員会

地域人財の発掘・育成

1 事業名 つがる市長寿大学

(1) 目的

急激に変動する社会の中で、高齢者一人ひとりが充実した日々を送り、社会適応の学習ならびに自主活動を通して、必要な教養や生活能力を習得し、仲間づくりをすすめ、地域における自主的活動を推進する。

(2) 事業内容

5月～11月まで月1回開催する。

2 事業名 郷土学習講座

(1) 目的

郷土の歴史や文化、自然について学ぶことにより、ふるさとへの理解と愛着を深め、地域を大切にする心を育てる。

(2) 事業内容

地元講師から郷土学習講座を年10回開催。

成果と課題

高齢者を中心とした学習機会の提供により、学びや交流を通じて生きがいや健康維持への意識が高まり、社会参加の促進につながっている。また、つがる市の歴史や文化に精通した市民講師による学習会を実施することで、郷土への理解と愛着を深めるとともに、地域に根ざした人財の活躍の場を創出し、仲間づくりや地域の支え合いの促進に寄与している。

参加者が固定化しやすく、新規参加者や比較的若い高齢層（前期高齢者）の参加が少ない状況にある。また、講座テーマが類似しやすく、受講意欲の継続や多様化する学習ニーズへの対応が課題となっている。加えて、市民講師についても後継者の確保・育成が十分とは言えず、将来的な人財の継承に向けた仕組みづくりが求められている。

学校・家庭・地域の連携・協働（コミュニティ・スクールを含む）

1 事業名 市民講座

(1) 目的

市民の主体的な学びを促進し、地域の学習文化の醸成にも寄与する。

(2) 事業内容

令和7年度はジュニアアスリートのための食事と補食講座を行った。

成果と課題

ジュニアアスリートとその保護者を対象に、成長期に必要な栄養や、練習前後における適切な食事・補食の考え方について学ぶ機会を提供し、競技力向上と健康的な身体づくりへの理解を深めることができた。特に、日常の食事内容や補食のタイミングに関する具体的な説明により、家庭における食事の工夫や見直しにつながるなど、実生活に即した学びの機会となった。

参加者が特定の競技や関心層に偏る傾向が見られ、より幅広い競技種目や未経験層への周知・参加促進が課題となった。また、講座が単発開催であったため、学んだ内容の定着や継続的な実践につなげるためのフォローアップや、年代・競技特性に応じた内容の深化が今後の課題である。

家庭教育支援の充実

1 事業名 家庭教育支援団体：mamasun Angels が主体となり多様な事業を開催

(1) 目的

家庭教育支援団体 mamasun Angels が主体となり、子育て世代を中心に多世代が交流できる場や、発達障害への理解促進、読書活動の推進、食を通じた地域のつながりづくり等の多様な取組を実施することで、家庭の孤立化を防ぎ、子育てに関する不安や課題を共有・解消できる環境づくりを図る。

あわせて、子どもから高齢者までが世代や立場を超えて関わり合い、地域全体で子どもの育ちと家庭教育を支える仕組みを構築することを目的とする。

(2) 事業内容

地域住民が世代を超えて集い交流する「つながる！つがる笑顔まつり」の開催や、発達障害に対する理解促進を目的とした「はっぴーすまいるラボ」を年2回開催。子育て世代を対象とした情報交換や創作活動の場として「mama's カフェ（クラフト展・子育てに関する情報交換）」を実施するとともに、毎月第3日曜日に多世代が集う交流サロン「がっぼど」を開催し、継続的な居場所づくりを行う。

成果と課題

家庭教育支援団体が主体となった講座や交流活動を通じて、保護者が子育てや家庭教育について学び合い、悩みや経験を共有する機会が広がった。これにより、子育て世代の孤立防止や保護者同士のネットワーク形成が促進され、地域における家庭教育支援体制の充実につながっている。

事業の継続的な実施に向けて、活動を支える人財や安定した財源の確保が課題となっている。また、団体の活動内容や取組の意義について、地域への周知が十分とは言えず、より幅広い参加者層の掘り起こしが求められる。

関係機関・団体等によるネットワークづくりの推進

1 事業名 市内小中学校の学校開放事業

(1) 目的

市内小中学校を地域活動の場として開放することにより、地域における文化、スポーツ等の振興を図ることを目的とする。

(2) 事業内容

市内小中学校の体育館等の施設について、学校教育活動に支障のない範囲で、スポーツ少年団や地域クラブ、社会人団体などの地域団体を対象に開放する。

利用にあたっては、申請・許可制度を設け、使用目的や利用時間を明確にしたうえで、施設の適正かつ安全な管理運営を行う。

成果と課題

学校施設を地域住民に開放することにより、身近な場所でスポーツや文化活動に取り組む機会が拡充され、地域住民の健康増進や交流の促進につながっている。学校施設の有効活用が進むとともに、学校・地域・教育委員会の連携が深まり、地域全体で学校を支える意識の醸成にも寄与している。

また、これからの中学校部活動の地域展開にも、場の確保として必須の事業である。

冬期間における暖房設備の使用や費用負担の整理、鍵の管理体制の明確化など、施設管理面での課題が残っている。あわせて、施設や備品の破損等が生じた場合の対応フローの周知や、利用団体間における利用調整・優先順位の考え方について、より分かりやすい運用ルールの整備が求められている。

つがる市地域学校協働
活動推進員研修会



つがる市学校運営協議会委員及び
地域学校協働活動推進員研修会



◇鱒ヶ沢町教育委員会

地域人財の発掘・育成

1 事業名 「ふるさと学習」

(1) 目的

町が示す5つの柱「世界自然遺産白神山地」「日本遺産北前船文化」「津軽藩発祥の地」「町の営み」「どんな自分になりたいか」を基に、小中一貫した鱒ヶ沢町らしい学習カリキュラムを構築し、ふるさと教育を進める。



(2) 事業内容

学習会の開催

- ① 津軽藩発祥の地種里城について
(光信公の館特別展見学)
- ② 白八幡宮大祭学習会
(鉦叩き、踊り体験、行列道具、
衣装着付け体験)
- ③ 歴史探求学習会
(現地調査～発表会)
- ④ 昔の道具学習会 (民具等の見学)
- ⑤ 北前船史跡等現地見学



成果と課題

【成果】

今年度は、4年に1度開催される白八幡宮大祭が8年ぶりに開催されたことや、津軽藩始祖大浦光信公の没後500年となる節目の年だったことから、大祭に関する踊りや芸能体験、衣装の着付け体験、行列での道具について学んだり、津軽藩発祥の地である種里城について学習したりするなど、小中学校一貫した学習カリキュラムに取り組んだ。

【課題】

ふるさと学習における農業、産業、経済について講師となる人材の確保が、年々厳しい状況となり、人材の育成や新たな分野を開拓しながらふるさとへの愛着や誇りを持てる児童生徒を育てることが課題である。



白八幡宮大祭
の様子



学校・家庭・地域の連携・協働（コミュニティ・スクールを含む）

1 事業名 「CSタウンミーティング」

(1) 目的

地域と学校が「地域とともにある学校」を目指し、両者が一体となって連携・協働して地域の子どもたちを育むため、鱈ヶ沢町の学校をどんな学校にしたいのか、子どもたちをどんな子どもに育てたいかを学校や地域の様々な方たちと一緒に話し合う。



(2) 事業内容

令和7年度テーマ「未来の鱈ヶ沢はどうか」
熟議（グループ協議）
全体発表

成果と課題

【成果】

今年度は町内小中学生にも参加をしてもらったことで、大人では気づかなかったことや、子どもではわからなかった意見が述べられるなど、充実したミーティングとなったとともに、話題となった意見については学校運営協議会で協議され、「すぐに実践できること」「今後時間をかけて取り組んでいくこと」に分けられるなど、協働体制の推進が図られた。

【課題】

地域住民へのコミュニティ・スクール、タウンミーティング、学校運営協議会に対する認知度がまだまだ低いことから、更なる認知度を高めるための周知方法、活動等の情報提供の強化が必要である。

家庭教育支援の充実

1 事業名 「みんなで子育てフェスティバル」（年2回開催）

(1) 目的

- ① 子育て世代の親子が気軽に集い、ともに学び、楽しい時間を過ごす場を提供する。
- ② 家庭教育を支援する団体や関係機関、他課と連携を図ることで、地域の活性化を図る。



(2) 事業内容

町ほけん福祉課、町子育て支援センターの委託先である舞戸子の星こども園と連携でのイベントを開催。

成果と課題

【成果】

今年度は春・秋の年2回開催したことで、他課や関係機関などそれぞれの役割分担を決めて実施することができた。また、フェスティバルを通じながら協力体制の強化が図られ、繋がりができたことで、家庭教育分野以外での生涯学習講座や教室にも参加される親子が増えるなど、良い影響が現れはじめてきた。

【課題】

引き続き、他課や子育て支援団体との繋がりを強化し、子育て支援体制を構築していく。また、子育てに協力できる高齢者への働きかけを行い、地域全体で子育て支援に携わっていただけるような組織づくりを整備していく。

関係機関・団体等によるネットワークづくりの推進

1 事業名 「鱒ヶ沢町町民文化祭」

(1) 目的

町文化団体の日頃の成果を展示・発表し、地域住民が芸術、文化を鑑賞することで、教養向上と文化創造活動の活性化を図る。



(2) 事業内容

- ①展示部門 10月25日（土）・26日（日） 日本海拠点館
- ②芸能部門 11月 2日（日） 舞戸公民館

成果と課題

【成果】

町民文化祭の開催日を展示部門と芸能部門を別日にしたことで、芸能部門に出演した団体や婦人会の会員たちもゆっくり作品展示を鑑賞することができるようになった。また、展示部門の作品を同じフロアで展示したことで、各文化団体の交流が図られた。

【課題】

文化団体、婦人会とも高齢化が進んでおり、後継者の育成支援が急務である。各文化団体の活動を広く町民へ周知し、引き続き支援体制の強化を図る。

◇深浦町教育委員会

地域人財の発掘・育成

1 事業名 深浦町小学生「生きる力」育成研修会「アドベンチャーキャンプ 2025」

(1) 目的

子どもたちが日常から離れ、自然の中で共同生活を行うことにより、自主性や協調性を養い、たくましく「生きる力」を身につけ個々のスキルアップを目指す。

様々なプログラムを通して、夏休みの思い出づくりや友達づくりを行い、郷土深浦の自然の素晴らしさや家族の大切さを学ぶ。



(2) 事業内容

小学生高学年（4～6年）を対象に参加者24名（6人×4班に編成）が1泊2日の日程で、テント設営、火起こし体験、竹飯ごうカレーづくり（夕食）、バケツプリンづくり、棒パンづくり（朝食）、貝殻・シーグラスフォトフレーム工作、モルック大会を体験。

「大人はしらんぷり」をコンセプトに、班の仲間と協力しながら自分たちの力で各メニューを行うよう取り組んだため、1泊2日の短い時間ながらも子どもたちの自主性や協調性など個々の成長を感じることができた。初めて工具や刃物を使う子どもが多く、時間内に工程が終了できなかった班もあり、タイムスケジュール意識とみんなが知恵を出し合い協力する仕掛けが必要と感じた。自然体験や他校との交流が魅力的な事業である。

2 事業名 深浦町生涯学習フォーラム

(1) 目的

町にルーツを持つ音楽家によるヴァイオリンとチェロのミニコンサートを開催し、一流の音楽に触れ芸術を楽しむ感性や創造力を育むとともに、講話や交流を通し郷土への理解と愛着をより一層深めてもらう。



(2) 事業内容

深浦町出身の父を持つ姉の岩谷明石氏（ヴァイオリン奏者）・妹の詩織氏（チェロ奏者）の「岩谷姉妹」による、クラシックの名曲やジブリ音楽など全14曲のミニコンサートと、演目の合間に音楽にまつわる講話や演奏体験会を実施した。

深浦町にいながらヴァイオリンとチェロの本格的な演奏を体感・体験できるまたとない機会ということで、町内外から90名の方に参加いただくことができた。優れた音楽を間近で聴くだけでなく、曲が生まれた時代背景などのエピソードを聞いたり、実際にヴァイオリン・チェロの楽器に触れ、岩谷姉妹から音の出し方や簡単なフレーズの演奏指導を受けることができ、参加者は音楽や芸術に関する学びを深めることができた。

今年度は音楽をテーマに開催し多くの参加者を集めたが、町外からの参加割合がやや高く、また児童生徒の参加も少なかったため、特にターゲットとなる地区や年代向けに重点的に声かけを行うなど、効果的な募集方法について検討が必要である。

深浦町にゆかりのあるプロの音楽演奏者が郷土のためにコンサートを開催することで、音楽を通し人生経験や学習により体得した能力を次世代へ伝えることができた。



成果と課題

郷土の自然の豊かさや歴史・文化と関わり、それを生活に生かし継承・発展させていく学習機会ができたと考える。今後も町民や子どもが気軽に参加しやすい学習ニーズを把握し、未来を担う地域人材の育成に取り組みたい。

学校・家庭・地域の連携・協働（コミュニティ・スクールを含む）

1 事業名 深浦町人材バンク活用事業

(1) 目的

仕事や趣味、生活を通して身につけた技術や知識を持った人を町民講師「ふかうら達人倶楽部」として登録し、学びたい人が「いつでも・どこでも・だれでも・何でも」学習できるための紹介・橋渡しを行う。



(2) 事業内容

「ふかうら達人倶楽部」登録講師（令和7年度時点 93名）を、必要に応じて各学校のクラブ活動や各種団体のサークル活動、町内会の集会などに講師として派遣する。令和7年度は深浦小学校（陶芸）・修道小学校（陶芸、大正琴、押し花、手芸）の2校5クラブにおいて、本事業の登録講師5名を活用し延べ43講座を実施した。

成果と課題

ふかうら達人倶楽部の活用により、拡大クラブとして地域住民と児童生徒が交流しながら、クラブ活動の中で様々な体験や挑戦が意欲的に行われている一方で、人口減や高齢化に伴う講師の確保・発掘が課題となっている。今後コミュニティ・スクール導入を検討していることから、地域と学校とのつながりに重点を置いた事業を展開していきたい。



家庭教育支援の充実

1 事業名 キッズフェスティバル

(1) 目的

親子のふれあいや地域のつながりを持つことによって、親としての学びや子育ての支え合い（家庭を孤立させない）を目的に気軽に参加できて楽しめる事業とする。

また、小中学生ボランティアスタッフとして活用し、地域社会や他者に貢献することで積極性や思いやりの心を養うことが目的である。



(2) 事業内容

オープニングは保育園児によるマーチング・お遊戯を披露し、5つのコーナーに分かれ、元気運動・牛乳パックコマづくり・お菓子づくり・絵本の読み聞かせ活動を行った。子育て支援団体ほほえみによるハロウィンおばけの壁紙づくりを実施。また休憩室（おむつ交換）設置し、イベントに参加しやすいよう配慮した。

開催場所が深浦地区のため、岩崎地区と大戸瀬地区の参加者が少ないと感じた。

ボランティアスタッフとして小中学生（16人）が協力してくれたおかげで会場も楽しく明るい雰囲気となり大好評であった。

2 事業名 軽スポーツフェスティバル

(1) 目的

健康増進と軽スポーツの普及のため軽スポーツフェスティバルを実施し、気軽に体を動かす楽しさと自己の健康管理に関心を持つことができる。



(2) 事業内容

例年スポーツ庁が実施している体力運動能力調査を成年・高齢者を対象に測定し現状の体力や筋力を知ることができる。

測定終了後はラダーゲッター、シャフルボード、ユニカールの3種目による賞品をかけた軽スポーツ大会を開催し、小学生から高齢者までランダムにチーム編成を行い、対抗戦で軽スポーツ競技を楽しむことができた。親子が一緒に活動することで家族のつながりや絆を深めることができた。また高齢者の運動不足解消と健康意識の位置づけに繋がったと考える。

3 事業名 ハロウィンウォーキング

(1) 目的

深浦町の社会教育施設の魅力を親子で発見するとともに、ウォーキングをしながらハロウィン仮装の楽しさと健康増進や運動不足を解消、参加者同士の交流を深める。



(2) 事業内容

保育園児6名、小学生8名、保護者9名の合計23名の親子が参加した。

ハロウィンの仮装をした親子がウォーキング（約2.5km）で、役場周辺の社会教育施設（歴史民俗資料館美術館、文学館、風待ち館）を訪問する。

施設見学後に〇×クイズで正解した場合と、合言葉「トリック・オア・トリート」の発声で館長からお菓子のプレゼントがもらえる。ゴール後は完歩賞及び施設スタンプラリーの景品として、再びお菓子の詰め合わせをプレゼントする。

ハロウィンの季節に合わせて参加者のほか、教育委員会職員も全員仮装し、雰囲気盛り上げ参加者と一緒を楽しむことができた。また、各社会教育施設職員の全面的な協力もあり、工夫を凝らした演出や仮装は参加者からも驚きと笑いがあった。当日は天候にも恵まれ、けがやリタイヤもなく保育園児を含む全員が無事にゴールできた。

親子で好きなキャラクターに変身し、普段とは違う服装での仮装ウォーキングは、健康的で親子で一緒に楽しめる良い機会であったため参加者から大変好評であった。

成果と課題

家庭教育支援事業として、今後も子育て中の親同士が互いに交流や情報共有できる機会を増やし、一人（孤立）で悩まず学びや子育てが充実するようなイベントを開催し支援の充実を図りたい。また、親子や家族での参加ができるスポーツ大会を取り入れ、多世代間交流と親子のつながりや家族との大切さを学ぶ事業を推進する。

今年度の新規事業として社会教育、社会体育、子育て支援の3つの要素を取り入れた親子でのウォーキング事業は、社会教育施設の役割を理解し、生涯学習の基本である個々の学習機会と親子のふれあいを目的として実施できたことは大きな成果である。次年度以降も魅力的な事業として工夫を凝らし継続していきたい。



関係機関・団体等によるネットワークづくりの推進

1 事業名 青森県立郷土館 特別移動博物館

(1) 目的

青森県立郷土館が所蔵する資料の中で、深浦地域から産出・発見された化石標本を文化施設で展示・紹介し、町民へ地域の歴史や魅力、自然環境に理解を深めてもらう。



(2) 事業内容

「特別移動博物館」と称し2日間の日程で岩崎地区文化祭にコーナーを設け化石や出土品を展示した。実際に化石に触ることや学芸員による説明、ワークショップを開催し「化石レプリカ作り体験」や「化石カード」を幼児から小学生まで体験することができた。普段触ることのない化石や貴重な出土品を観ることにより、子どもたちがとても興味を示し、学芸員に恐竜のことや考古学についての質問をしている姿が印象的だった。

2 事業名 楽しく運動能力UP！ふかうらスポーツ教室

(1) 目的

生涯にわたってスポーツに親しむ児童生徒を育成するため、弘前大学教育学部保健体育ゼミと連携し、各種目の基礎的な体の動かし方や技術を学ぶ機会とする。



(2) 事業内容

将来体育教師を目指す5名の学生から町管内小中学生（希望者）が2日間の日程でバドミントン、バスケットボール、バウンドテニスの専門的な指導を受けた。

小中学校の部活動にない競技を学生から丁寧に教わることで、スポーツの新しい魅力と競技技術の向上を図ることができた。真剣に取り組む姿勢と学生と楽しそうな笑い声もあり会場は終始和やかな雰囲気であった。年齢の近い大学生とスポーツを通じ交流を深めたことにより参加した小中学生にとっても貴重な2日間であった。

また、体育教師を目指す学生への指導は、元気で明るく丁寧な対応を心掛けており、弘前大学教育学部教授の指導に感銘を受けた。

成果と課題

次年度以降も県、弘前大学、企業、各団体等と連携し、町民のニーズに合わせた、町主催以外での特別授業や展示会を開催し、歴史文化、スポーツに限らず他分野での地域活性化につながる生涯学習の学びの機会を取り入れていきたい。

◇板柳町教育委員会

地域人財の発掘・育成

1 事業名 ふるさと町民講座

(1) 目的

生涯学習の推進と個人の余暇活動の充実を図るため、町民に対して様々な講座、学習機会を提供し郷土の歴史と文化に誇りをもった人間性豊かな町民の育成を図る。

(2) 事業内容

- ・障がい疑似体験 パラスポーツ体験イベント
- ・金魚ねふたづくり教室
- ・クリスマス親子お菓子づくり教室



2 事業名 りんごの里気楽塾

(1) 目的

町民の活動を支援するため、指導者の育成や確保し社会教育指導体制の充実を図る。

(2) 事業内容

- ・茶道体験講座



成果と課題

事業のマンネリ化があったため、今年度より新規事業を計画し実行した。参加募集開始から3日程度で定員となるなど好評であった。

マンネリ化防止のため、事業後アンケートによりニーズを把握して定期的に事業の見直しを行いたい。

学校・家庭・地域の連携・協働（コミュニティ・スクールを含む）

1 事業名 地域学校協働活動本部事業

(1) 目的

地域の人々が学校と連携・協働しながら、地域全体で子どもの成長を支え、地域を創生するため、地域と学校をつなぐパイプ役として、推進員を管内小中学校へ1名ずつ配置。学校のニーズに対応したボランティアを探し活動している。

(2) 事業内容

学校からの要望に応じて、地域の様々な方々の参画を得て、授業の補助、自学自習等の支援、部活動の指導、図書の整理や読み聞かせ、花壇や樹木の整備等の校内の環境整備、登下校時における子どもの安全確保に係る活動、学校行事の運営支援活動を実施している。

図書館と各小学校へ家読りレー用図書を設置している。

成果と課題

学校のニーズに対応したボランティアを探し活動しているが、地域ボランティアの高齢化により後継者を探すのが難しい。

家読りレーについては少しずつではあるが浸透してきている。一方で推進員の業務負担の増加がある。

家庭教育支援の充実

1 事業名 「読書のまち」による家庭教育支援

(1) 目的

子どもたちが発達段階に応じた読書の機会を得ることによって、文字に親しみ、言葉を学び、豊かな心を育む。



(2) 事業内容

幼児から小学3年生を対象に読書週間等、おはなし会による絵本の読み聞かせを開催している。



成果と課題

おはなし会として活動する団体が1団体増えた。

活動する場を多く提供できることが理想だが、既存の講座等を分担するようなかたちになっている。

関係機関・団体等によるネットワークづくりの推進

1 事業名

[家庭・地域・学校、関係機関が連携した読書活動推進事業]
読書のまち推進体制「家読りレー」

(1) 目的

家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話すことで家族のコミュニケーションを深める。

(2) 事業内容

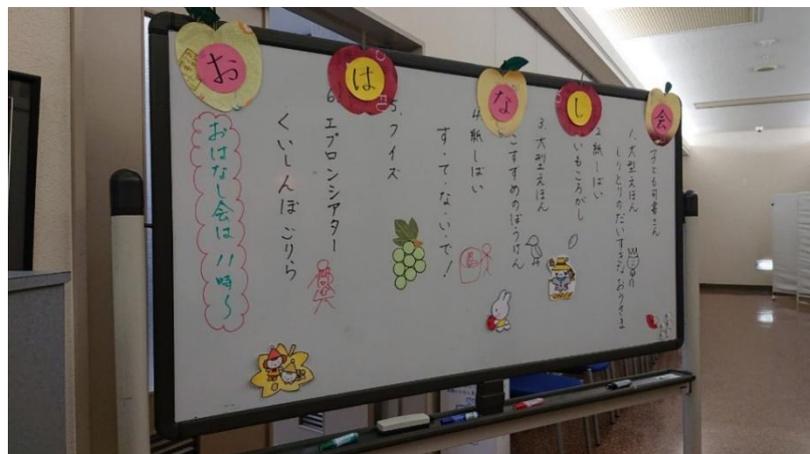
各小学校へ年間約 120 冊の家読りレー用図書を設置し、学校図書担当教諭、推進員も家読活動を推進している。

成果と課題

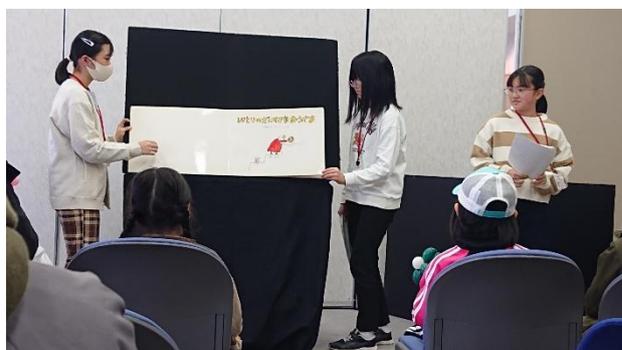
家読の配本を楽しみにしている児童がいた。

親子だけでなく兄弟姉妹で読み聞かせなどをして、会話を楽しんでいる様子も見られた。

高学年になるにつれて家読に挑戦する児童が減っている。



こども司書養成講座の
修了生による「読み聞かせ」



◇鶴田町教育委員会

地域人財の発掘・育成

1 事業名 鶴田町町民教養講座

(1) 目的

地域住民の学習ニーズを把握するとともに、自主的に学習できるよう場所や機会の提供に努める。

(2) 事業内容

実施時期：6月～12月

教室名	実施回数(回)	延べ人数(名)
アート教室	15	170
ヨガ教室	15	377
三味線教室	17	226
料理教室	8	64
陶芸教室	26	266
英会話教室	16	317
パソコン教室	15	205
料理教室 PART2	7	79

成果と課題

チラシやホームページの活用により、幅広く周知することで参加者の増加につながった。また、料理教室 PART2 とパソコン教室の時間を夜に変えたところ、『参加しやすくなった』との声も聞かれた。特にパソコン教室は、下山学園の協力を得ながら充実した学習機会となっている。

次年度もリピーターだけではなく、より多くの方々に充実した学習内容を提供できるよう、周辺地域や講師などの条件も考慮しながら実施したい。

キッチンカーもたくさん並び、大盛況だった町民文化祭



学校・家庭・地域の連携・協働（コミュニティ・スクールを含む）

1 事業名 鶴田町学校運営協議会

(1) 目的

教育委員会及び学校長の権限と責任のもと、保護者及び地域住民等の学校運営への参画並びに支援・協力を促進することにより、学校と保護者及び地域住民等との間の信頼関係を深め、学校運営の改善や児童生徒の健全育成に取り組む。

(2) 事業内容

◎鶴田小学校6年生（86名）「米作り体験」

6月3日（火）田植え、9月19日（金）脱穀、1月30日（金）もちつき
協力：鶴田町農業委員会、つがるにしきた農協鶴翔統括支店

◎鶴田中学校3年生（85名）「避難所防災訓練」

6月27日（金）

テーマ：令和6年能登半島地震における青い森 JRAT の活動
講師：青森県災害リハビリテーション連絡協議会
事務局長 西村 信哉 氏

成果と課題

小学校による「米作り体験」では、体験することにより、米のよさや大切さ、米作りに関わる人々の苦労や願いに気付き、さまざまな食文化や食生活に関心をもってもらうとともに、地域住民との交流を深めることを目的に行っている。

中学校では、中学生の防災意識を高め、防災に関するスキルを学び、防災対応能力の向上を目指すとともに、地域組織等と連携を図り、防災を通じて安全で安心な地域づくりにも貢献することを目指している。

小学校6年生による米作りは、スケジュールの都合で稲刈りができず、昔ながらの足踏脱穀機や千歯扱きを使って脱穀を行った。稲刈りを楽しみにしていた児童が多数いたようであり、来年度は全員が稲刈りを含め全ての工程を体験できるように日程調整をしたい。

中学校3年生による避難所防災訓練では、中学校が避難場所にもなっていることから、簡易ベッドや簡易トイレ、テント等を保管してある場所から運び出しを行い、組み立てを行った。今後は、ここで学んだことを地域住民にも伝えられるよう、中学生も即戦力・実働部隊として積極的に活動できるように、防災意識を高めていきたい。



鶴田町学校運営協議会主催
鶴田小学校6学年「もちつき」

家庭教育支援の充実

1 事業名 サンシャインスクール利用家庭に対する支援

(1) 目的

放課後子どもプラン推進事業である「サンシャインスクール」を利用する児童の健全育成に努める。

(2) 事業内容

サンシャインスクールを利用する児童の保護者を対象に、子育て等に関する相談を随時行っている。

成果と課題

必要に応じて、教職員の力を借りながら学校と連携し問題解決に取り組んでいる。今後は、放課後等デイサービスやフリースクールを行っている「ミライク学園」とも連携しながら問題解決に取り組んでいきたい。

関係機関・団体等によるネットワークづくりの推進

1 事業名 鶴田町町民文化祭

(1) 目的

地域住民が学習成果や能力を活かし、主体的にボランティア活動等の社会参加活動に取り組み、それらを発表できる機会の提供に努める。

(2) 事業内容

期 日：11月15日（土）・16日（日）

場 所：鶴田町公民館、鶴田町体育センター、武徳館、
鶴田町保健福祉センター「鶴遊館」

文化協会による芸能発表会、書道展示及び書道パフォーマンス、鶴田町写真クラブの作品展示、児童生徒による作品展示、フリーマーケット、医療・福祉に関する相談等。

成果と課題

入場者数は、15日（土）3,396名（前年度より778名増）、16日（日）2,737名（前年度より404名増）となり、2日間とも、町内外からたくさんの方々にお越しいただいた。今年度は、幅広く町民の方に参加してもらえるように、キッチンカー団体にも声をかけ、食に関する出店を増やした。また、巡回ワゴン車を町内全域に運行していたが乗車率が悪かったため、乗り合いの送迎車を準備して対応し、利用者からはとても好評であった。文化協会による芸能発表会では、下山学園の生徒が「鶴田夢音頭」を踊り、老若男女が喜び・楽しめる発表会となった。マナー化している部分もあるため、例年同様ではなく、新しいアイデアやプログラムの導入を検討し、地域の若者や異なる世代の参加を促進するための工夫も必要と感じた。

◇中泊町教育委員会

地域人財の発掘・育成

1 事業名 小学校体育授業サポート

(1) 目的

運動の得意な児童と苦手な児童すべてが「わかる」「できる」体育の実現を目指し、教員の体育（跳び箱・マット運動等）の授業において、指導補助や準備運動等の支援を行う。また、教員の指導力向上につながる助言等を行う。

(2) 事業内容

対象を、跳び箱運動・マット運動・リズム運動・バランス運動等とし、教員と打合せの上で支援方法を決定し、指導を行う。実施回数は1小学校につき10コマまで。

成果と課題

体育授業サポート事業について、体育指導に不安を抱える教員も多なかで、指導面での不安が軽減され、授業の充実につながった。教員からは「非常に助かっている」との声が多数寄せられ、支援の有効性が確認できた。すべての教員が体育指導に十分な経験や専門性を有していないことから、継続的な支援体制の構築が課題である。

学校・家庭・地域の連携・協働（コミュニティ・スクールを含む）

1 事業名 小学校芸術鑑賞会

(1) 目的

町内全小学生を対象として芸術作品に触れる機会を提供するもので、人間性を育むとともに豊かな感性と情操を培い、未来を担う主体的な人材を育成の育成を図る。

(2) 事業内容

「リスボン博士のサイエンスショー」



2 事業名 なかどまりスポーツフェスティバル

(1) 目的

町民の健康保持と体力づくりを目指すと共に、健全なレクリエーション活動を通じた世代間交流により町民相互の融和を図る。

(2) 事業内容

中泊町が好きであれば、どなたでも参加できるイベント。種目としては、パン食い競走、借り物競走、瓶釣り、洗濯リレー、サイコロ運試し競走、野菜詰め放題、ダンシング玉入れ、大じゃんけん大会のほか、陸上競技場フィールド内ではグラウンドゴルフ、モルックなど、気軽に親しめる軽スポーツの体験も行った。



成果と課題

小学生芸術鑑賞会については、今年度はサイエンスを取り入れた内容とし、芸術に加えて学問的視点を融合させた新たな試みを実施した。これまでは「音楽」と「演劇」を交互に実施してきたが、昨年度は「落語」を取り入れるなど、多様な演目へと工夫を重ねている。今後も演目の幅を広げ、児童の発達段階や関心に応じた演目を選定し実施していく。

スポーツフェスティバルについては、各種競技に幅広い年代の町民が参加し、世代を問わず楽しむことができた。一方で、中学生や高校生の参加が少なかったことから、今後はこれらの年代への参加促進が課題である。

家庭教育支援の充実

1 事業名 リフレッシュ講座

(1) 目的

子育て中の疲れを軽減するリラクゼーションや、子育てに関する教養の提供を通じ、保護者が子育てしやすい環境を整え心身を癒やし、リフレッシュする時間と場所を提供することを目的として実施する。

(2) 事業内容

好みのアロマオイルを使ったハンドクリーム作りやヨガ体験、小児看護専門家による悩み相談会を行うほか、同じ立場の親同士が交流し、悩みを共有する機会を設けている。

成果と課題

町内のこども園や保育園で実施しており、参加者は子どもを預けて安心して講座に参加できる。講座では参加者同士の交流が活発に行われ、そのつながりから新たな子育てのヒントを得る機会ともなった。参加者（親）の笑顔が増えることで会場の雰囲気や和らぎ、家庭においても明るく子どもに接することにつながったものと考えられる。

関係機関・団体等によるネットワークづくりの推進

1 事業名 西北五つがる地区社会教育担当者協議会

(1) 目的

本協議会は、地域づくりの手法を具体的にイメージできるよう、より実践的に学ぶ機会を提供することを目的として実施されている。

(2) 事業内容

各種研修会への参加により、他市町の生涯学習・社会教育関係職員との交流を通じて参考事例の情報交換が行われ、本町の社会教育担当職員の資質向上を図るものである。

成果と課題

各種研修会に参加し、他市町の生涯学習・社会教育関係職員との交流を深めることができた。情報交換を通じて、地域性は異なるものの、多くの市町が共通する課題を抱えていることが確認された。また、他市町においては本町にはない特色ある取組や有効な施策が実施されており、今後の事業推進に向けた参考となった。一方で、得られた知見を本町の実情に即してどのように活用していくかが課題である。



こども園で行われた「町民文化祭」



中里中学校吹奏楽部の演奏に聞き入る地域住民